

ICD-11 RSG (改訂運営会議) 及び Icamp2 (改訂作業) 会議報告

1. 会議概要

主催者：WHO 本部事務局

日 程：平成 22 年 9 月 27 日 (月) ～ 10 月 1 日 (金)

場 所：スイス国 (ジュネーブ) WHO 本部

参加国・参加者：アメリカ、イタリア、オーストラリア、カナダ、スウェーデン、フィンランド、ドイツ、日本、マレーシア、フランス、WHO、分野別 TAG 議長、WHO-FIC 各委員長、Managing Editors、Classification Experts、iCAT (入力支援ツール) チームなど 70 名以上が参加した。

目 的：

本年 4 月に開催予定だった当会議がアイスランドの火山噴火のため 9 月に延期となったもので、ICD-11 α ドラフトの発表に向けての最終調整及び β ドラフト作成に向けての作業計画の発表、確認等であった。

2. 日本国参加者

○TAG 議長

菅野健太郎内科 TAG 議長、柏井聡眼科 TAG 議長、渡辺賢治伝統医療 TAG 議長

○Managing Editors

秋山純一消化器 WG Managing Editor、富谷智明肝・膵・胆 WG Managing Editor

興梠貴英循環器 WG Managing Editor

○TAG メンバー

及川恵美子 死因統計 TAG メンバー

○オブザーバー

日本病院会：山本修三名誉会長、山口和英顧問、横堀由喜子通信教育課長、石橋圓通訳

3. 内容

9 月 27 日 (月) ～ 30 日 (水) : i-CAMP2

9 月 27 日 (月) 全体会

9 月 28 日 (火) ～ 29 日 (水) 以下の 2 グループに分かれて議論。

<注：このグループ分けは WHO から配布された資料に基づく。>

*グループ1：議長：Dr. Chris Chute RSG 議長

専門分野別 TAG メンバー、Managing Editors、分野横断 TAG メンバー、WHO-FIC メンバー、iCAT ソフトウェアチーム、WHO メンバー

*グループ2：

分野横断 TAG メンバー、WHO-FIC メンバー、iCAT ソフトウェアチーム、オブザーバー（日本病院会）、WHO メンバー

・会議冒頭に ICD-11 α 版が配布された。（Dr. Bedirhan Ustun, WHO コーディネーター）

①Volume 1（内容例示）2分冊

②Volume2,3（総論、索引）と合冊版（索引は例示のみ）

③参加者リスト（写真付き参加者74名を記載）

装丁：色はオレンジ

プリント版は未完成で、検討用のドラフト版なので使用してはならない。

WHO-FIC メンバー、TAG メンバーなどに限定とし、第三者に公開してはならない。

・i-CAT プラットフォーム作業の進捗状況（Dr. Tania Tudorache, Stanford University）

リアライゼーション、ユースケース、外因、機能の特性、スレッド・ノート、変更履歴、階層管理など、いくつかの機能が追加された。今後は、エクセルとのインポート・エクスポート機能など、さらに機能が追加される。

・TAG の作業の進捗状況（Ms. Sara Cottler, WHO 担当官）

現在 ICD 項目は合計で 20,487 項目。そのうち 14,381 項目は変更なし。新規追加 4,371 項目、破棄 331 項目。定義は目標が 80%だったが現在の達成率は 10%(20,487 項目のうち 2006 項目)。全体の 5%に複数の親項目がある。

・分野別 TAG からの報告

①稀な疾患(Rare Disease)TAG ②皮膚科(Dermatology)TAG

③眼科(Ophthalmology) TAG ④内科(Internal Medicine)TAG

⑤小児科(Pediatrics)TAG ⑥筋骨格系(Musculoskeletal)TAG

⑦精神科(Mental Health)TAG ⑧神経科(Neurology)TAG

⑨外因(Injury and External Causes)TAG

⑩泌尿生殖器 (Maternal, Neonatal and Urogenital) TAG

⑪新生物(Neoplasms)TAG ⑫歯科(Dentistry)TAG

・分野横断 TAG(Horizontal TAG)からの報告

①死因分類(Mortality)TAG(m-TAG) ②疾病分類(Morbidity)TAG(Mb-TAG)

③生活機能(Functioning)TAG(f-TAG) ④質と安全(Quality and Safety)TAG

9月30日(木)～10月1日(金) : RSG

以下の2グループに分かれて議論。(RSGメンバーとそれ以外)

*グループ1 : 議長 : Dr. Chris Chute

専門分野別 TAG メンバー、分野横断 TAG メンバー、WHO-FIC メンバー、iCAT
ソフトウェアチーム、WHO メンバー、オブザーバー (日本病院会)

*グループ2 :

Managing Editors、分野横断 TAG メンバー、WHO-FIC メンバー、iCAT ソフ
トウェアチーム、WHO メンバー

●全体のまとめ

・α版の概要と今後の対応

第1巻 (日本語版第2巻 内容例示)

コード構成の変更、定義の作業、複数の親項目などについて作業を継続する。

第2巻 (日本語版第1巻 総論)

節の追加など、各部分について、今後も多くの改善作業が必要であり、引き続き
作業を行っていく。

第3巻 (日本語版第3巻 索引)

デジタル索引の需要が高い。

印刷版も需要があるので WHO は印刷版を必須としている。

ICD-11 では、分類を細かくして、索引を対応させ、整合性のある構造関係を作成
する。

・5月までに簡易版コンテンツ・モデルを作成する。

・最終日にβ版に向けて、作業日程を組むための表が準備されたが、結局日程表を
作成できなかったため、i-CAMP2 の翌週以降、WHO は各 TAG の Chair と電話
会議を行い詰めていくことになった。

●会議の資料等は以下の URL ですべて公開となる。

<http://sites.google.com/site/icd11revision/>